



年 組 名前

道新ワークシート

道内日本人50万人割れ

迫る人口急減時代

北海道内の日本人が500万人割れし、人口急減時代が迫っていることを印象つけた。2025年には団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者となり、死亡者数の増加に拍車がかかる本格的な「多死社会」が到来するとされる。効果的な人口対策が見当たらない中、労働力や地域の担い手として期待される外国人との共生社会の構築が急務だ。

若年世代が道外流出

住民基本台帳(住基)によると、道内の総人口は1998年の569万3495人をピークに減少に転じた。住基ネットワークの参考値では、今年11月末で504万8416人。このうち日本人は498万4155人で、6万4261人が技能実習や特定技能などの在留資格を持つ外国人だ。

民間組織「日本創成会議」(増田寛也座長)は2014年、全国896自治体について「消滅する可能性がある」とした

報告書を公表。これを受け、当時の安倍晋三政権は60年に1億人の人口維持を目指すとした地方創生の長期ビジョンを閣議決定したが、地方の人口も子どもの数も減り続けている。

若い世代の東京一極集中も止まらない。道内でも札幌市への一極集中が進んだ一方、近年は若い世代の道外流出が続き、札幌市の「ダム機能」は低下している。札幌市立大の丸山洋平准教授(地域人口学)は「国や自治

体が行ってきた子育て支援などの効果は小さかった」と指摘する。

高まる外国人依存度

国土交通省北海道局が22年5月に公表したリポートでは、1次産業の就業者の減少や高齢化、都市間距離の長さや高規格道路ネットワークの不十分さ、地方の貨物自動車運送業者の減少などの現状を指摘。少子高齢化や人口減が続けば、地域経済を支える人材の確保が難しくなり、医療や教育を担う施設の減少が進み、生活や産業の維持

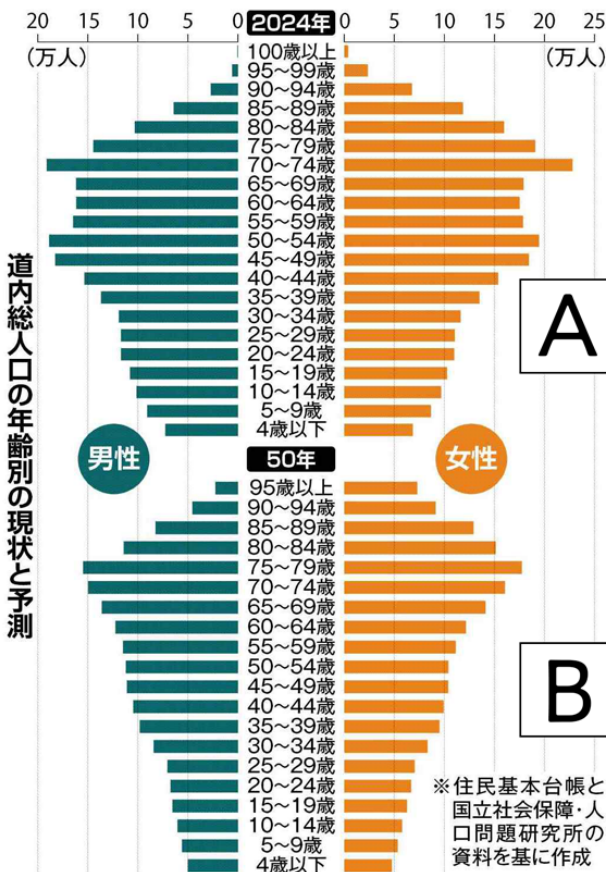
国士交通省北海道局が22年5月に公表したリポートでは、1次産業の就業者の減少や高齢化、都市間距離の長さや高規格道路ネットワークの不十分さ、地方の貨物自動車運送業者の減少などの現状を指摘。少子高齢化や人口減が続けば、地域経済を支える人材の確保が難しくなり、医療や教育を担う施設の減少が進み、生活や産業の維持

だけにとどまらず、地方での生活自体も困難になるとの懸念を報告した。実際、道内の少子高齢化は深刻だ。住基で今年1月1日時点の65歳以上の高齢化率は32.8%で、全国平均28.8%を上回る。厚生労働省の人口動態統計では23年の出生数は過去最少の2万4430人で、5年間で25.2%減った。合計特殊出生

率も1.06で過去最低を更新し、全国では東京都(0.99)に次いで2番目に低い。

25年には1947〜49年生まれの団塊の世代が全て75歳以上となり、死亡者数の増加が加速する見通しだ。増加が続く外国人に対する「労働力」「地域の担い手」としての依存度は高まるが、北大公共政策大学院の池畑周直美教授(東アジア現代政治)は「韓国や台湾も外国人の確保に力を入れる中、稼げず、生活もにくい日本の需要は、あと数年で頭打ちになる」と懸念を示す。国の推計を上回る人口減の可能性もあるだけに「実効性のある少子化対策と併せて、外国人の権利を保護し、多文化を受け入れる環境の整備も急ぐ必要がある」と話す。

(木村みなみ)





年 組 名前

道新ワークシート

(1) 記事の傍線部にある「ダム機能」の説明として最もふさわしいものを次の中から選び答えなさい。

- A 洪水などの自然災害を防ぐための機能。
- B 都市の経済成長を支えるための機能。
- C 若年層の道外への流出を防ぐための機能。
- D 都市部の工業技術を向上させる機能。

(2) 次の文は、記事の内容をまとめたものです。

次の空欄①～⑤にA～Eの中から適する語を補い、文を完成させなさい。

北海道の(①)が進む中、重要な課題は高齢化が進んでいくことです。
特に、(②)への一極集中が問題となり、(③)が進んでいます。
そのため、地域での(④)や、(⑤)を促進することが急務とされています。

- A) 就業機会の増加 B) 札幌市 C) 外国人労働者の受け入れ
- D) 人口減少 E) 若年層の流出

① ② ③ ④ ⑤

(3) YさんとKさんが、記事中の人口ピラミッドについて会話をしています。しかし、傍線部①～③のうちグラフを誤って読み取っているものがあります。誤っているものはどれか、番号を記入し、正しく訂正して答えなさい。

Yさん「この2つの人口ピラミッドを見ると、少子高齢化について考えさせられるね。」
Kさん「そうだね。①75～79歳はB(2050年)の方が減っているけど、少子高齢化は今後も続いていくと
考えてよさそうだ。」
Yさん「たしかにA(2024年)よりもB(2050年)の方を見ると、②15～64歳の生産年齢人口が明らかに
減少しているから、将来の働き手も確実に減少しそうだね。」
Kさん「あ、それともう一つ気になるところは、③A(2024年)と、B(2050年)の同じ世代を比べると、
A(2024年)の45～49歳、50～54歳の人口が多いことだ。後で調べてみよう。」

番号		訂正後	
----	--	-----	--